

Feeling excited

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.

Chairperson Michiyo Hata
Chief Editor Misuzu Takahashi

日本のおどり

Dancing from the heart

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
TEL 03-5983-6001 (代表)
京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
TEL 075-712-8701 (代表)
http://www.kikunokai.co.jp/



【随想】

舞扇

Photo Hiroshi Mizobuchi



初代 尾上菊之丞師の梅久

花を求めて、更に前進したいと願っています。

出でくる美しさを理想として書き記しました。私も、二十一世紀へ日本の美、舞踊の花を求めて、更に前進したいと願っています。

美

美しく優雅に舞う。欣喜雀躍して踊る。流れる如く、匂うが如く、嵐の如く激しく踊る...

maiongi

『舞踊の美と花』

舞踊集団 菊の会
代表 畑道代

INFORMATION

【清流の舞—公演予定】

菊の会日本心を踊る新宿厚生年金会館 (民音公演)
10月 9日 (土) 3時開演 民音会員料金S席¥4,000 A席¥3,300
一般料金S席¥4,500 A席¥3,800

韓国文化親善交流公演

10月11日(月) 慶熙大学講堂落成記念公演
日本のおどり ふれあいプラザさかえ文化ホール 3時開演、入場料¥2,000

10月16日(土) 千葉県文化振興財団地域文化公演

菊の会自主公演 「カッチャ行かねこの道を」 (なかのZERO小ホール)

10月26日(火) 3時・7時開演 ¥5,000 (当日¥5,300)

京都八瀬研修所公演 「カッチャ行かねこの道を」

11月10日(水)~12日(金) 2時・6時半 八瀬研修所 075-712-8701

13日(土)・14日(日) 1時・5時 ¥4,000 (当日¥4,500)

菊の会自主公演 歌舞劇「追分の女」 各会場2時半・6時半公演予定

入場料¥5,000 (当日¥5,500)

12月 2日(木) 越谷コミュニティーセンター (大ホール)

12月 3日(金) 新宿文化センター (大ホール)

12月 4日(土) 川越市市民会館やまぶき会館

12月 7日(火) 江戸川区総合区民ホール (船場)

12月 8日(水) 志木市民会館

12月10日(金) 所沢市民文化センターミュージズ

12月11日(土) 日野市民会館

※上記は予定であり、やむを得ず変更する場合がございますので、ご来場の折にはお電話でご確認ください。尚、10月22日~24日、29日~31日に予定しておりましたアトリエ公演は都合により延期となりました。何卒ご了承くださいませ。

第6回「おさらい会」

菊の節句9月9日に八瀬研修所で行われた第6回おさらい会は、会を重ねるごとに演目も充実した催しとなりました。今回、初めて宮原沙樹さん(中3)、山沢弘子さん(中1)、喜多村英子さん(小6)の3人も参加し、有意義な研鑽の場となりました。



《新時代の民族芸能を目指して》

日本各地の伝統芸能の保存と人材育成の催しに積極的に取り組むとともに、民俗芸能をモチーフにした舞踊劇を公演、新しい舞踊文化の創造を目指しています。



岩手県「鹿躍り」

茶房 舞む welcome

OPEN 5周年の記念日には、大勢の方にお越しいただき、ありがとうございました。これからも皆様に愛される舞むでありますよう努めて参りますので、かわらぬお引き立ての程をよろしくお願い申し上げます。

Editor : Hiroshi・Wada / Satoshi・Hara / Sachiko・Tsuruoka

Yumiko・Nagai

Design : Nagamitsu・Satake

編集協力：CLIP/HMS

一部¥150

【中杉教室・八王子小菊会の合同研修会修了】

8月27日より4日間、八瀬研修所で、中杉子供教室、八王子小菊会のメンバー10名の研修会が行われました。畑道代表の指導のもと、課題曲「禿」「藤娘」に挑戦し、勉強会、見学会と充実した研修会になりました。



菊の会京都八瀬研修所

【友の会へのお誘い】

「友の会」では新規会員を募集しています。粗品贈呈、会報「日本のおどり」の配布、公演のお知らせ等、様々な特典があります。ご参加をお待ちしています。

【教室案内】

菊の会の日本舞踊を習いたい方のために、各地で舞踊教室を開いています。詳細を知りたい方は、菊の会までお問い合わせ下さい。

【学校公演】

日本の伝統芸能を通して、子供たちに美しい日本の心と文化を伝えたいと学校公演を行い、各地で感動の声をいただいています。是非お気軽にお問い合わせください。

おふたいむ

『トチチントンシャン』

公演メンバー
宮沢りか

トチチントンシャン 飛団子といえは、清元「玉兔」。この曲は私の初舞台の思い出が一杯詰まった作品です。当時は今のようにならな積古場の積古ではありませんでした。今日は千駄ヶ谷、明日は麻布、そして錦糸町といった具合に、移動教室ながら転々としていたのです。毎日大きな荷物を持ってあちこち通ったことも、今では懐かしい思い出です。古典のお稽古は、当時、畑先生が住んでいらしたマンションの一室でした。古典を踊った事のない私が、形はどうあれ、なんとか舞台稽古までこぎつけたのです。そこで思わぬ問題が起きたのです。ヤットントンと足を踏む段になつて、なんと私はトントンという

音が出せないのです。そうです。マンションでの稽古は下に響くと思ひ、音を出さないようにしていたので、どうやって音を出すかわからなかったのです。客席で見ている先生に「もっと強く」と言われても、私は焦るばかりでどうしていいかわかりません。見るに見かねた先生は、舞台上駆け上がり「こうやるのよ!!」と御自分で足を踏んでみせて下さったのです。私は、先生の姿に感動しながら無我夢中で足を踏み続けていました。今では立派な稽古場も建ち、毎日の移動もなく、どんな稽古も自由にできるようになりました。新しいメンバーもそれが当たり前のようになっていますが、私は折り返し「玉兔」の足踏みを思い出し、常に感謝の気持ちを持ち続けていたいと思っています。



プロフィール

みやざわ りか

1974年畑道代に師事。舞踊劇「日本大通り」でロザリン役に抜擢される。菊の会の作品および数々の海外公演に出演。1997年に東京新聞舞踊コンクールに「島の千歳」で3位に入賞

千葉県文化の振興をめざして

財団法人 千葉県文化振興財団
理事長 高山明德

千葉県文化振興財団は、設立主旨の一つとして、県民の誰もが様々な文化に接する機会を拡充を図るため、県及び市町村の協力を得ながら優れた出演者による公演等を実施し、県民文化の振興に努めています。県内の各地域には、和太鼓や民謡、日本舞踊など多彩な芸能や伝統的な地域文化が根づいています。この様な中で、芸術性の高い舞台公演を実施し、地域文化の活性化を図ることを目的として、この度舞踊集団「菊の会」による公演「日本のおどり」が印旛郡栄町の「ふれあいプラザさかえ文化ホール」で、十月十六日午後三時から開催することになりました。

「文化は人を創り、人は街を創る」という言葉がありますが、まさに文化活動は、生活に潤いを与え、その活力となる人の営みにならぬはならないものです。芸術の秋、「菊の会」の公演は、人々に大きな感動を与えてくださること期待しています。

NEWS

盛大に「菊峯会」発会式

9月10日晴れやかな秋空の下、松戸市「森のホール21」レセプションホールに於いて、舞踊教室「菊峯会」が千葉県の東葛方面教室として新たに発会しました。



川井松戸市長が祝辞を述べくださり、鎌ヶ谷市の皆川市長、流山市の眉山市長からメッセージ、野田市の根本市長から花束が贈られ、多数の来賓の参加をみました。

この日の模様は、地元コアテレビ、千葉日報、京葉市民新聞、まつどジャーナル、ながれやま朝日に報道されました。

第25回「菊の会教室発表会」



今年も盛大になかのZEROホールで開催された教室発表会。ひまわりG4期、準公演メンバー6名の寿菊三番叟から華やかに幕を開けました。初舞台を踏んだ21名の中からは「舞台の袖にいる時は本当に緊張しましたが、自分にライトが当たるとだんだん落ち着いて笑顔も出てきました」との声も。110演目、7時間の熱演に、観客から盛んな拍手がおくられました。



第15回南越谷阿波踊り
50万人の人出で賑わう越谷の阿波踊り



恒例の志木公演
充実した内容で好評を博しました



初の松戸公演
大盛況に感謝致します



第16回アンコール公演
上位3位を独占した公演メンバーの舞踊



ディナーショー
風情ある和風庭園と菊の会のディナーショーを満喫できる山水亭

TOPICS 大好評の荒川公演

秋風薫る9月4日昨年に引き続き、荒川区共催事業としてとりあげて頂いた、菊の会及びACC荒川区地域振興公社主催「菊の会公演」が盛大に開催されました。プログラムは「古都歳時記」、狂言舞踊「花冠者」、菊の会舞踊選集「故郷の心を踊る」で、満員となったお客様から「来年も、是非公演してほしい」との要望が多く寄せられました。このように、毎年公演を催して下さる地域が少しずつ増えている事に、心から感謝の思いを深くすると共に皆様のご期待に応えられます様、一層の努力をしております。



特別インタビュー 三隅治雄氏に聞く 自分の決めた道を一途に生きる 美也の姿に希望の灯が



歌舞劇「追分の女」に対する想いを語る三隅氏（国立の自宅にて）

今秋、菊の会の自主公演、で初演される 歌舞劇「追分の女」について、作者・三隅治雄氏に見所を聞きました。

——一九〇〇年代のフィナーレを飾る菊の会の自主公演が、三隅先生書き下ろしの「追分の女」に決まりましたね。それは、どのような作品なのでしょう。

三隅 追分というのは各地にあります。これは北海道西海岸の江差追分の話なんです。

——あの民謡で有名な江差追分ですか。

三隅 そうです。実は江戸時代、江差はニシン漁で大変栄えた町だったんです。ニシンの捕れる五月は江戸にもないほどの繁華ぶりとうたわれたほどで、豪商もたくさん集まり、商業的に

もとても繁盛していたのです。ところが、明治になってニシンが捕れなくなると、海運業者も豪商もいなくなり、地付きの漁師や貧しい人々だけが残ったのです。まるで、灯が消えたようですね。

三隅 ええ。でも人々は、心の灯まで消してはならない、と江差追分を歌いながら自分たちを励ますわけですね。江差追分は、そういう江差で生き抜く苦しみとそれを跳ね除ける強さを表現した歌なんです。

——「追分の女」では、それがどういう物語になるのですか。

三隅 江差追分は民謡の中でも名曲中の名曲で人気も高く、日本中から民謡家が集まる江差追分だけのコンクールが、毎年三日間も連続で催されるほどです。今回は江差で天才といわれ、十八歳で名人位をとった木村香澄さんが、歌と方言の指導に付けてくれます。

三隅 本来芸能というものが大衆に理解され喜ばれるものになるには、踊りだけでなく、歌も踊りもお芝居も、また楽器の演奏も全部そろってやるものだったんです。歌舞伎や能、狂言、欧米でいえばミュージカルもそうです。そういう意味で、古典や郷土舞踊も含めて、日本の素晴らしい舞踊を伝承にとどめず、現代に生きる人々の喜怒哀楽が伝わる生きた芸術にしたい、日本の方々の共感を得、皆さんに喜んでいただける作品を作りたいということから、これらの作品が生ま

——おけさ海に行く」に始まって「藍の女」「カッチャ行かねかこの道を」「阿国かぶき」、そしてこの「追分の女」など、いずれも逆境であつても一生懸命生きていく。そうすれば、すべ

三隅 代表の畑道代さんは、尾上菊乃里という舞踊家として、きわめて優れた技量をお持ちの方です。その方が畑道代として、伝統を大切にしながら新しい日本の舞踊を普及させていこうと菊の会を設立されたわけなんです。菊の会の目指しているものは、多くの方々に楽しんでいただける舞踊を創っていくこと。そのためには、踊りそのものが人々に理解していただけるものでなくてはいいですね。また同時に、舞踊そのものが人々に生きる喜びを与えるものであること……。

——追分には、追憶に舞う「江差追分」を舞う畑道代



追憶に舞う「江差追分」を舞う畑道代